

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100675		
法人名	株式会社 三協メディケア		
事業所名	グループホーム みんなのいえ（さくら）		
所在地	〒020-0851 盛岡市向中野二丁目55番6号		
自己評価作成日	令和7年12月21日	評価結果市町村受理日	令和8年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和8年1月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の皆様のご理解とご協力をいただきながら23年目を迎えました。 介護に役立つ豆知識を掲載した広報「みんなのいえ通信」を近隣住民へ配布し、情報を発信しております。 広報にて、事業所の取り組みや利用者様の様子を地域の皆様に知っていただけるよう努めております。 利用者様、ご家族の思いを大切に、人生最後を安心して健やかに過ごせるよう看取りを含め対応しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市の西南地区に位置し、近くには幼稚園、小学校、高等学校、クリニック、スーパー、公園などがあり、西バイパスへのアクセスも良く、生活の利便性の高い場所にある。法人は盛岡市に本社を置き、宮城県でも複数のグループホーム等を運営しており、県内では北上市、遠野市にグループホーム各1、盛岡市にグループホーム5ヵ所に加え、デイサービス、ヘルパーステーション、サービス付き高齢者住宅も運営している。事業所では、職員の勤続年数が長く半数が10年以上の勤務経験を有し安定した運営がなされている。24時間看護ステーションと一体となって看取も行っている。地域には、事業所の広報紙を回覧し更に認知症に係る情報も発信し相談を受けることも可能なことを伝えるなど、地域に根差した運営がなされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)		1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている(参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている(参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム みんなのいえ (さくら)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「共に和み共に生きる」の運営理念を共有し、安心して過ごしていただける環境作りを、常に心掛けている。	本社経営理念である「共に和み、共に生きる」の実現に向け、家庭的な温かい環境のもとでサービス水準の維持を図り、利用者の尊厳ある生活と権利を尊重し、礼節と尊厳をもって利用者支援に努めている。	より、理念の実現を明確にするための行動目標を職員間で話し合い定めその達成度を明確にし、更なる向上に取り組むように期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の行事に参加させていただいたり近所の訪問理容の方に理髪を依頼している。また、施設の広報を地域に配布し取り組み等を発信できるようにしている。	町内会に加入しており、回覧板を活用して事業所の紹介のほか、認知症のミニ知識や相談などが可能なことをお知らせしている。近隣幼稚園と交流しているほか、支援学校の実習生を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域に配布している広報で情報を発信できるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議で情報交換し、防犯や感染症予防の取り組み等を周知し対策について考える機会をいただいている。	町内会長、幼稚園長、民生児童委員、地域包括支援センター、家族代表、利用者代表の委員で構成され、家族代表と利用者代表は持ち回りで数人ずつが出席している。家族代表をグループ化し参加をお願いすることにより、多くの家族の参加を得ることができている。2ヵ月ごとの会議では、身体拘束適正委員会やヒヤリハットなどの委員会の内容なども報告し、多くの委員から発言をいただいている。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム みんなのいえ (さくら)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議に参加いただく地域包括センターの方や民生委員の方に相談や助言をいただいている。	市の介護保険課との日常的なやり取りは、メールや電話で行うことが多いが、介護保険の申請事務や加算の確認は、管理者が直接窓口を訪ね疑問点を確認のうえ必要な手続きを行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束についての研修を定期的に行っている。職員間で困難ケースについての対応を話し合い共有している。	3ヵ月毎に全職員が参加する身体拘束適正委員会を開催し、身体拘束のない支援に努めている。ユーチューブを活用し動画による具体的な支援場面を通した取り組みを教材に活用している。日常的な支援の場面では、スピーチロックとならない言い換えなどをお互い意識しながら支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待についての研修を定期的に行っている。対応する職員の気持ちにも配慮できるよう声掛けや相談しやすい環境作りを意識している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護や成年後見制度について学んでいる。必要に応じて職員で話し合い共有している。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム みんなのいえ (さくら)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、重要事項説明書で説明を行っている。改定時等は個々に説明し、理解いただけるように配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時や運営推進会議に出席していただいた際に意見や要望をお伺いし、運営に反映するようにしている。	運営推進会議に多くの家族に参加していただき、意見や要望を伺う機会にもなっている。家族に電話連絡する際や来所した際にも、意見等を伺うようにしている。また、利用者の日常生活が分かるように「みんなのいえ」通信を毎月お届けしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員間のコミュニケーションを大切にしている。個人面談を行い、意見や提案を聞き取り、運営に反映させている。	職員の半数近くが勤続10年を超える構成であり、気心が分かり合える関係にあり、日常的な業務手順等の見直しは、自由に議論して先ずはやってみようとする職場風土がある。年2回、所長と個人目標の進捗や私的なことなどを話し合う個別面接を行い、職員と目線を合わせる一助にもしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事考課を行い、職員個々の取り組みを評価している。資格所得を推奨し取得後は資格手当を支給している。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム みんなのいえ（さくら）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	トレーニングの頻度は多くないものの一人ひとりの状況に応じ、無理のない範囲で研修等を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	研修や報告会等で同系列の職員と交流する機会がある。そこで、他施設のサービス内容や入居者の生活モデル等を学ぶことが出来る。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人が安心して会話・コミュニケーションが取れるよう話し方・距離感の取り方等に注意しながら行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族様が分からないことに関しては専門用語をあまり用いず、分かりやすい説明で行うよう意識すると共に、こちらからもケアの内容について提案している。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム みんなのいえ (さくら)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	家族様の希望を確認した上で、本人にそのサービスが合っているか判断している。それに加え、他のサービスも提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	「職員」という意識をあまり感じさせないよう、リラックスしたコミュニケーションが取れるよう対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	普段の様子を定期的に報告したり、消耗品の購入をお願いする時都等、本人の状態を知ってもらいつつ共に支える仕組みを作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会や外出等で今までの人間関係も維持できるよう支援している。	馴染みの人も利用者も高齢になり、面会や訪問は少なくなっている。稀にはあるが、友人や離れて暮らしている姪夫婦が訪ねてきたり、手紙が届くこともある。小グループでチャグチャグ馬っこや高松の池での花見など、利用者がかつて訪問したことのある場所にミニドライブとして出かけている。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム みんなのいえ（さくら）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士での会話・コミュニケーションは少ないため職員が間に入って場を盛り上げることもある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス終了後も相談・支援に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の希望を聞くと共に職員からも提案・実施している。	高齢化が顕著であり、自らの思いを言葉で伝えることができる利用者は少なく、生活歴や家族からの情報と本人との関わりの中から、表情、反応から思いを推測して支援している。新たな発見や気づきがあった場合には、申し送り帳に記入し共有し、本人の思いに即した支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	過去の生活歴を照らし合わせた上で、現在の状態に合ったサービスを提供している。また、新しい情報が入り次第、全体で共有している。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム みんなのいえ（さくら）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	その日の様子や状態を見て、変化や気づきを申し送りノートを活用、情報共有してケアに活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	日々の情報を主治医・訪問看護・家族に伝え、情報・助言をいただいている。基本6ヶ月毎に見直しを行い、本人・家族の思い・意向が反映されるようプラン作成している。	入居前に家族や利用しているケアマネジャーからの情報を基に、暫定の目標を作成している。職員間で行動観察し、本人や家族、主治医からの意見を確認し、修正を加えて改めて短期の目標を定めている。毎月の定例会議でモニタリングを行い、安定していれば6ヵ月毎の見直しとしている。状態に変化があれば、随時見直しを行うこととしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録で生活の様子・食事量・水分摂取量・排泄等記録している。申し送りノート・ドッキリノートでも情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	利用者様・ご家族様の意向に沿えるよう努め、状況に応じた支援を心掛けている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム みんなのいえ (さくら)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	町内会・近隣住民・警察・消防などへ「みんなのいえ通信」を配布し理解を得られるよう情報を提供し安全・安心して生活していけるように働きかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入所前からのかかりつけ医を利用される方もいますし、当施設の協力医に変更される方も居る。必要な医療を受けられるよう支援している。	3人はかかりつけ医を継続利用し、他の13人は、月2回来所する訪問診療医を新たな主治医としている。日常の健康チェックは、週1回来所する訪問看護師が担っている。歯科は月1回訪問歯科医が来所し、入れ歯の調整等を行っている。皮膚科も連絡すれば往診してもらえる体制を整えている。他の専門科は、近隣のクリニックを活用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護が週1回訪問し、利用者様の体調管理を行っている。気になることがあれば相談・報告しアドバイスをいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は病院の相談員と利用者様の状態の把握と家族様の意向をくみ取り安心して入退院できるよう努めている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム みんなのいえ（さくら）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居の際に御家族に看取りについて説明している。重度化した場合、再度御家族の意向を確認し、見取りを希望される場合は主治医・看護の協力をいただき、職員全員で最後まで支援している。	本人、家族には、入居時に医療連携体制看取り指針で説明し、希望があれば看取りまで行うことを伝えている。訪問看護ステーションと24時間連携し、直近3年間で2人の利用者の看取りを行っている。看取りの後には、職員間で振り返りを実施している。大半の職員は看取りを経験しているが、対象者が出た場合には改めて看取りのための研修を行うこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故発生時の連絡体制は整っていて、訪看へ連絡し指示を受けて対応している。ヒヤリハットを活用し、同じような事故をおこさないよう、事故がおきた時の対応を知識として身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練を年2回行っている。シェイクアウト訓練に参加。ホームでできる備蓄をしている。	年2回の避難訓練を実施している。6月に台所から出火した夜間想定訓練では、普段ユニット単位の生活をしているため、隣の利用者の移動能力等の把握不足が明らかになり改善点として上げられた。12月にはボイラー室からの出火を想定した避難訓練を行った。事業所の福祉避難所に指定されている近隣の特別支援学校までの避難経路等について、訓練時に利用者を車に乗せて確認している。	現在避難場所を屋外としていますが、ユニットは離れていることから、火災の程度により第一避難所として、もう一方のユニットに移動する訓練の実施も望まれます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者様の声や態度で訴えている事を見逃さず、支援に努めている。 排泄、入浴等は特にプライバシーの確保に努めている。	人生の先輩としての尊厳を持った支援を基本とし、部屋に入るとき、ノック、声掛けなどプライバシーの尊重に留意している。また、トイレ等への誘導でもストレートな物言いではなく、言葉を変えるなどし利用者の尊厳に配慮した誘導を心がけている。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム みんなのいえ (さくら)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	天気の良い日に「外に行きたい」と話されるときは外気浴をし気分転換を図っている。雑誌を好まれる利用者様にはご家族の協力の元、定期的に新しい雑誌を用意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員の業務のペースになりがちですが、なつかしの歌謡曲や時代劇を録画して観たり読書をしたり、一人ひとりの暮らしを大切に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入浴時や汚れがあった時は着替えをしています。2か月に1回、床屋に來所していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	朝・昼・夕食のメニューが重ならないよう心がけている。誕生日にはちらし寿司・手作りケーキでお祝いしている。	現在、朝食と夕食の副食を外注としているが、今年度末から利用者支援の時間確保のため、昼食の副食の外注も法人として決定している。おやつは、事業所として継続して用意することとしている。行事食の仕出しやお寿司等の提供は、利用者から好評を得ている。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム みんなのいえ（さくら）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	利用者様一人ひとりの状態に合わせ対応している。早食いで詰め込みすぎる場合は、声掛けと食事を分けて2つ用意したり、トロミ剤を使用したりムース食にしたり、器を持ちやすい物にしたり工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアの実施、月1回歯科往診と歯科衛生士による入居者様の口腔ケアの指導を受け支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	個々に排泄のパターンを把握しトイレで排泄できるように支援している。	自らトイレに行く利用者は9人おり、夜間は転倒防止のためセンサーを利用している。定時誘導が必要な利用者は7人となっている。排泄リズム維持のため、乳製品の活用や水分補給のための各種飲み物を提供し、自力排泄に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分摂取量、飲食物の工夫など、便秘予防に繋げるよう支援している。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム みんなのいえ（さくら）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	個々の希望やタイミングに合わせての入浴はできていないが、週2回を目安に入浴を図っている。入浴がない日は足浴をして清潔保持につとめている。	週2回、日曜日を除いた午前中に入浴できるようにしている。介護度の高い利用者には職員2人一組で支援している。入浴は個浴で職員とゆっくりコミュニケーションできる場でもあり、普段話さない利用者が思いを話したりする大切な場面になっている。季節感の菖蒲湯なども行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	十分な睡眠が取れるよう衣類からパジャマに着替え室温調整を行い安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	体調の変化に気づき往診・訪問看護と医療連携の協力のもと、服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	季節行事を取り入れたり、入居者様の誕生会には手作りケーキでお祝いして気分転換になるよう支援している。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム みんなのいえ (さくら)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	一人ひとりの希望に添うことは出来ないが、スローショッピングを取り入れたり地域で催される行事に見学に行かれたり、お花見ドライブなど戸外に出かけられるよう支援している。	利用者の高齢化や天候不良、感染対策などで近隣の散歩も厳しい状況にあるが、小グループでの近場の散歩は可能な限り行っている。屋外が難しい時は、両ユニットをつなぐベランダで外気浴やおやつ会を行っている。今年は盛岡市シティマラソンのコースが近いことから見学に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金を持つことの大切さは理解しているが、お金を持ち込まれている利用者はおらず、使える機会はない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族からの電話の取次ぎをしている。携帯電話で自由に家族や友人に自ら電話し、会話を楽しんでいる利用者もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	空調を利用し快適に過ごせるように調節している。壁に季節に応じた装飾を飾り付けている。	エアコン、パネルヒーター、加湿器が完備された食堂を兼ねたホールの奥に小上がりの畳間がある。手前にキッチンがあり、テーブルと椅子が配置され、料理の匂いが届いている。多目的の場所として、軽体操、嚙下運動などを行い、壁には正月とみずき団子の壁掛けがあり、季節の流れが感じられるように工夫されている。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム みんなのいえ（さくら）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ホールのテレビ前にソファがありゆっくりテレビを観たり、自席で雑誌を読まれたり居室で休まれたり、各自で過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家族の写真を飾ったり、好きなぬいぐるみ・本・雑誌を置かれている。	電動ベッド、洗面台、クローゼット、パネルヒーター、エアコンが備え付けられ、快適に生活できるように整えられている。家族写真や思い出の品を持ち込み飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者の状況に合わせて介護用ベッド・車椅子・センサー等を使用し安全に過ごせるよう支援している。		